

令和4年度学位記授与式 学長式辞（令和4年3月18日）

春本番の季節となり、今年も新たな旅立ちの日を迎えることになりました。まずは、皆さんの努力が実って学位を取得し、卒業の日を迎えられましたことを、大学役員、教職員一同心よりお祝い申し上げます。もちろん、本日を迎えることができたのは、ご家族をはじめ周囲の方々の応援があつてのことです。皆さんはそのことを、くれぐれも忘れないでください。また、ご父母の皆様方におかれましては、ご子息・ご令嬢のご卒業を心よりお慶び申し上げます。

さて、皆さんは、本日を期して長い学生生活を終え、いよいよ社会人としての第一歩を踏み出すこととなります。皆さんが本学で過ごされた最後の2年間は、新型コロナウイルス感染症が蔓延・拡大し、世界中がこの未知の脅威をめぐって大きく揺れ動いた時期にあたります。コロナ禍は、世界が常に不安定であり、先を見通すことが困難なことを示す象徴的な出来事でもありました。実際、現代の社会は目まぐるしく変動しており、例えば人工知能（AI）などの技術革新により、今行われている多くの職業の仕事の内容や質などは、近い将来、少なからぬ変化を余儀なくされるものと思われまます。

こうした変動著しい社会の中を力強く生き抜くためには、卒業後も学び続ける強い意志が必要です。同時に、日々の仕事にこつこつと取り組む根気強さや我慢強さも求められることになるでしょう。皆さんが本日授与される卒業証書・修了証書とは、この後も学び続けること、そして忍耐強くものごとに取り組むことができる力を身につけた証明でもあると考えてください。

いよいよ社会に出る皆さんが最初に行うのは、一見つまらなそうに見える仕事、あるいは平凡な作業かもしれません。しかし、そこに何か改良の余地はないものかと少しずつ工夫してみることがたいせつです。また、さまざまな人や物から素直に学んで、昨日できなかったことに再度挑戦し続ける姿勢が求められます。「継続は力なり」という言葉があります。毎日の一見小さな努力の積み重ねが、誰もが認める大きな成果に結びつき、皆さんの人生において豊かな未来を切り開いてくれることになると思います。

本日から皆さんは、本学の同窓生としての活躍が始まります。これからは、母校の発展のためにお力添えをいただけたらと存じます。成長した皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。何よりもお体に気をつけてお過ごしください。駿河台大学は、皆さんをいつまでも応援しています。

本日は、誠におめでとうございませす。

令和4年3月18日
駿河台大学 学長 大森一宏